

**つるがしま里山サポートクラブ 活動報告書**（令和8年度）2026

活動日時	月	日	曜日	開始	終了	場 所	会員参加数
	1	26	月	13:00	14:10	藤金市民の森	3名
活動名称	なめこのほだ木設置					報告者：吉井 優	

1、活動目的

24日の藤金市民の森の整備活動にて、危険木伐採の対象として、ウワミズザクラが伐採されました。一応サクラの一種ですので、貴重なナメコのほだ木候補が作られました。ナメコのほだ木造りは、3023年2月に高倉市民の森で行いましたので、それ以来の活動となります。2年後の晩秋にナメコが美味しくいただけることを祈って頑張ります。

2、活動内容ほか

24日に伐採して玉切りされたウワミズザクラに、種駒専用キリで孔をあけ、なめこの種駒を打ち込みます。ほだ木の設置場所を決め、落ち葉や枯れ枝をとりのぞき、土をむき出しにします。ここに、種駒を打ち込んだほだ木を並べて終了です。18本のほだ木に400個の種駒を打ち込みましたので、十分に菌はまわると思います。

3、評価：

過去数回使用したほだ木は、ほとんどバラ科サクラ属のソメイヨシノとヤマザクラで、大量のナメコを収穫できました。ウワミズザクラは、バラ科ウワミズザクラ属の桜ですので、花の形状が全く違います。前回高倉市民の森でもウワミズザクラでナメコの栽培を行いましたが、収穫時期がずれて、食べきれないような大量収穫とはなりませんでした。しかし、同じ高倉でウワミズザクラ属のイヌザクラでナメコの栽培をしたときには大量に収穫できました。どちらになるかは不安ですが、新しい知見が得られると思います。

なお、ウワミズザクラは、藤金市民の森に10本以上生えており、高倉や太田ヶ谷の森にもたくさん生息しています。毛呂山の大類の森にも数本生えており、この地域では、雑木林に普通に定着している樹木と思われます。

新潟地方では、ウワミズザクラの蕾は、アンニンゴと呼ばれ、塩漬けにして、食べられています。また蕾とまだ若い実はてんぷらとなり、温泉旅館で提供され美味しくいただきました。熟した実はお酒につけて、果実酒として楽しまれています。これも温泉旅館でいただきましたが、驚くほど美味しかったです。このように、蕾が美味しく食べられて、成熟した実で果実酒を作り、伐採すればナメコのほだ木になるという、非常に有用な樹種ですので、鶴ヶ島の里山を代表する樹種として、広く認知されてほしいです。

4、課題

鶴ヶ島のウワミズザクラは、大木に成長して蕾も実も容易にとれないため、食することが困難ですので、若い木を育てる必要があります。数年前太田ヶ谷の森に、実生の若木が多数存在しましたが、今は見つかりません。若木を購入するか、挿し木で増やすか検討しましょう。

<里山参加会員>

石樽、柳川、吉井



<活動写真>



2013 高倉市民の森 なめこ



2023 太田ヶ谷の森 ウワミズザクラ花、

